

第四空知川橋梁群（コラム「まちの貴重な文化財」）

読みもの・コラム

投稿者：：

Posted on : 2021-11-1 8:00:00

広報ふらの・コラム「まちの貴重な文化財」No.5

11月号で紹介するのは空知川にかかる「第4空知川橋梁群」です。



暮らしの「足」を支える橋梁

旧釧路本線の滝川一下富良野間が開通し、下富良野駅（現・富良野駅）が道北・道東・道央を結ぶ分岐点となったのは1913年（大正2）のことでした。建設工事は1910年（明治43）に着手、その中でも困難を極め、多額の費用を要したのが橋梁工事でした。

上の写真は、大正2年撮影の第四空知川橋梁の完工写真で、背景には無立木の清水山が見えます。空知川と富良野川の合流地点に設けられた学田三区の第四空知川橋梁は、兩岸が低地であること、また洪水時には氾濫流量が大きく水位も高くなることが考慮され、鋼桁13連の長大な橋として設計・建設されました。雪解け時期の増水などで、工事施工中に幾度も水害を受け、大変苦勞したそうです。

この橋梁と前後に配置された避濫橋、頭無川橋梁は、108年間休むことなく私たちの暮らしの「足」を支えています。橋台は煉瓦造、鋼桁は神戸市の川崎造船所（川崎重工の前身）の製造で、銘板には「明治四拾四年」と製造年がはっきり刻まれています。

富良野市博物館 ☎42-2407